

私たちは何処へ行こうとしているのか？ —戦後最大の危機・問われる「国民」—

講師 田中伸尚 さん

とき | 2014年 **4月12日(土)**
午後2時～4時30分
(開場1時半)

会場 | **ホルトホール大分 302/303 会議室**
大分市金池南1丁目5-1 電話 097-576-8877

入場 | **無料** (カンパは歓迎いたします)

二度と国家のためには
死なない！ 殺さない！



Nobumasa Tanaka

1941年東京生まれ、朝日新聞記者を経てノンフィクション作家。戦後が抱える主要な問題を、緻密な調査の元にテーマ別に『自衛隊よ夫を返せ』(現代書館) 『さよなら「国民」』(一葉社) 『ドキュメント・憲法を獲得する人びと』(岩波書店) 『大逆事件・死と生の群像』(岩波書店) 最新本に『抵抗のモダンガール 作曲家・吉田隆子』など70点を超える著書がある。

協賛

大分マスコミ9条の会
赤とんぼの会

戦後民主主義と呼ばれるものが、崩壊の危機に瀕しています。アベノミクスという幻想を抱かせながら、靖国や慰安婦問題で挑発、「国民」に危機感を煽り、教育・メディア・憲法を思いのままに操ろうとする政府。紛れもなく許せないのは多数という暴力だが、それを許してしまう「国民」の問題がある。なぜこんな事が起きたのか、それを今確かめたい。『さよなら「国民」』の中で、著者は

敗戦直後、おそらく多くの人が学んだことは…「もう、二度とこりごり」であった。この思いは、つきつめていけば国家、天皇のために死ぬということは二度としない、換言すればそうした国家を支える「国民」になることを「やめよう」という認識にたどりつくはずだ…戦争、敗戦の経験で問われていたのは国家と同時に「国民」でした。それが、二度と戦争はしないという「戦後史認識」の核心なのだと思えます。

夏までに三冊の本を仕上げねばならないという田中さん、お忙しい中に来県頂くことになりました。少々いくつかの題名の本が並びますが、お話はきわめて解りやすく聞きやすいのだと思えます。是非ご参加下さい。